

## 孤立しがちな男性への呼びかけ

過去の災害時の事例により、仮設住宅や復興住宅で中高年の男性が孤立したり、アルコール依存症になりがちことが判明していた。震災によりそれまで住んでいた地域のコミュニティが壊れ、見知らぬ隣人たちと仮設住宅等に住むことに馴染めないという問題も出てきていた。このような問題の解決に向けては、地域において「絆やつながり」を持ち続けることが重要である。仮設住宅等における生活環境も含め、住民ニーズの把握、見守りや必要に応じたパーソナルサポート的な支援の導入など、地域支援の仕組みによる社会的包摂を進めていくことが求められる。

### | 交流会や相談会に参加しない

ある被災地の仮設住宅では、家族や知人・友人とのつながりが断たれた孤独感から飲酒量が増加し、更には入居者間でトラブルに発展するなど、アルコール依存症や事件・自殺等につながる危険性があった。

実際に行政の支援関係者、社会福祉協議会の訪問支援員などから、孤立しがちな男性が増えていると問題提起されることもあった。しかし、本人がアルコール依存を自覚し、医療機関等を受診することは少ないため、サポートする必要性が生じた。

### | 男性だけの「健康教室」

孤立しがちな男性が増えてきたある仮設住宅では、行政の管理栄養士や保健師、社会福祉協議会の訪問支援員、保健コーディネーターらが集まり、対策を検討した。

最初は交流会や相談会を開いてみたものの、男性はなかなか参加してくれないため、参加者のニーズを模索し、新たな施策について議論した。その結果、「健康」という明るく前向きに生きてもらう基盤づくりとして「健康教室」を開催。これにより、健康管理を意識し、アルコール依存の予防や地域の人とのつながりを構築できる取組にしようと考えた。

### | 活動のポイント！

- 単に講座情報を告知するだけでなく、住民に信頼されている訪問支援員が、仮設住宅に入居している男性全員に声をかけた。
- 年齢や病歴など参加条件をつけず、「健康づくり」を前面にして、参加のハードルを下げた。
- 「居酒屋講座」では、管理栄養士が健康なお酒の飲み方やカロリーや肝臓に配慮したおつまみの作り方を指導する一方、会場を居酒屋風に飾り付けるなど、楽しい雰囲気づくりを心掛けた。
- 参加者で元パティシエの男性からお菓子作りを習うなど、参加者自身が講師となったり、参加者同士が趣味を通じて交流を深めるなど、「絆やつながり」を持つきっかけの場とした。

### | 参考事例

- [復興庁 男女共同参画の視点からの復興～参考事例集～No.70,82](#)